

## ランチョンセミナー5 [LS5]

日時：2026年4月9日(木) 12:20~13:20

会場：Room 6 501 (福岡国際会議場)

4月9日(木)

第130回日本眼科学会総会



ランチョンセミナー5 (LS5)

## ROHTO AWARD

THE 31ST ROHTO AWARD MEMORIAL LECTURE

## 第31回受賞記念講演会

日時  
場所2026年4月9日(木)  
12:20~13:20

第6会場 福岡国際会議場 5F 501

座長

西田 幸二 先生 (大阪大学)  
Kohji Nishida

講演

畑 匡侑 先生  
Masayuki Hata  
(京都大学医学研究科眼科学)

2007年 京都大学医学部 卒業  
神戸中央市民病院 初期研修医  
2009年 神戸中央市民病院 眼科研修医  
2014年 京都大学医学部附属病院臨床研究センター 助教  
2018年 モントリオール大学生化学 ポスドク  
2020年 日本学術振興会 海外特別研究員  
2022年 京都大学眼科 特定講師  
現在に至る

利益相反公表基準:該当あり

加齢と生活環境が形づくる自然免疫応答変容:  
加齢黄斑変性の新たな病態理解へ

加齢および生活環境因子は体内の自然免疫系に多面的な変化をもたらす。ゲノムを超えて免疫応答の改変を誘導する。これらの変化は加齢とともに蓄積し、自然免疫の老化や自然免疫記憶の変容を含む“自然免疫応答変容”は、加齢関連疾患の発症基盤として重要性を増している。本講演では、加齢黄斑変性(AMD)における自然免疫応答変容の役割を、加齢に伴う恒常性破綻、生活環境因子との相互作用、そして炎症・組織修復応答の偏位の観点から整理する。さらに、自然免疫応答変容がAMDに伴う血管新生・萎縮・線維組織形成の質的变化をいかに規定するのかについて、最新の研究成果を交え議論する。これらの知見は、加齢と環境因子を統合したAMD病態の再解釈を可能にし、新たな治療標的探索へとつながることが期待される。

講演

秋山 雅人 先生  
Masato Akiyama  
(九州大学大学院医学研究院眼病態イメージング講座)

2008年 山口大学医学部医学科 卒業  
九州医療センター 初期臨床研修医  
2010年 九州大学病院  
2011年 飯塚病院  
2012年 理化学研究所 ゲノム医科学研究センター 研修生  
2015年 理化学研究所 統合生命医科学研究センター リサーチアソシエイト  
2018年 九州大学大学院医学研究院 眼科学分野 特任講師  
2019年 九州大学大学院医学研究院 眼病態イメージング講座 講師  
2025年 九州大学大学院医学研究院 眼病態イメージング講座 准教授  
現在に至る

利益相反公表基準:該当あり

ゲノムで駆ける眼科学  
~病態解明と精密医療への挑戦~

遺伝要因は多様な眼疾患の発症に関与する。遺伝性網膜ジストロフィーや網膜芽細胞腫といったメンデル遺伝病のみならず、加齢黄斑変性や緑内障などの多因子疾患の感受性にも影響し、さらに糖尿病や高血圧といった眼疾患の危険因子となる生活習慣病の発症リスクにも寄与する。演者は大規模ゲノム解析を専門とし、ゲノムワイド関連解析や次世代シーケンシング、ポリジェニックリスクスコアなど様々な遺伝学的アプローチにより、視覚障害の原因疾患の遺伝要因の解明と臨床応用に関する研究に取り組んできた。また、臨床では眼部悪性腫瘍を専門とし、がんゲノム診療の実用化に向けたゲノム解析を行っている。本講演では、これまでの研究成果を概説するとともに、これからの眼科医療におけるゲノム情報活用の意義について述べる。

共催：第130回日本眼科学会総会/ロート製薬株式会社

共催：ロート製薬株式会社